

〈座談会〉

現代中国を語る

二一世紀は中国の時代だと言われて久しい。

日本にとっても中国はますます重要な存在となりつつある。そんな中、本大学院に在籍する中国人留学生と外交・安全保障の論客たる日本人学生、あわせて六名が集い、中国の現在、日中関係についてざつくばらんに語りあった。

（司会 後藤茂文）

司会 自己紹介をお願いします。

楊 二回生の楊倩（セイ）と申します。故郷は中国の北の方にある黒竜江省で、大学は黒竜江大学です。日本に来て四年目です。就職は中国でしたいと考えています。

劉 一回生の劉璇（セン）と申します。出身は中国の内モンゴルです。大学は吉林省の東北師範大学に通っていました。中国の公共部門で働くか、日本に残って就職するか迷っています。

徐 一回生の徐仕棟と申します。出身は上海で、復旦大学を卒業し、「上海老舗協会」というNP

Oに一年ほど勤めていました。中国のNPOの今後について考えるために、日本に留学しようと思いました。一、二年間日本の企業に勤めた後、最終的には中国で就職する予定です。

古田 二回生の古田達郎と申します。出身は石川県金沢市です。京都大学法学部を卒業し、この大学院にきました。来年からは防衛省で公務員として生きていこうかと思っています。

小林 一回生の小林卓雄と申します。出身は神奈川県横須賀市です。私は、社会人として入って、防衛大学校を卒業し、現役の海上自衛官をやっています。

司会 中国にいた頃、日本に対してどのような印象を持っていましたか。また、来日してからその印象は変わりましたか。

徐 普通中国人といえば日本人に対してよい印象を持っていない人が多いですが、外国からいろんな文化を吸収している上海人は中国の中でも特別で、日本人に対して良い印象を持っている人が圧倒的に多いです。僕はメディアを専門としていて情報に豊富だったので、来日前後で印象はあまり変わっていません。

楊 大学で北海道出身の先生や日本からの留学生もいたので、日本に対する印象は来る前とほとんど変わっていないですね。日本人は礼儀正

しい印象があります。例えば、中国人ならちゃんと列に並ばないけど、日本人の先生や友達ばかりと並ぶので、頑張らないと最後まで残されてバスに乗れなかったりしますね。

司会 日本人の院生お二人は中国にどんな印象を持っていますか。

小林 まず、中国ってすごい国、大きい国だなあという憧れのような印象を抱いていました。

それで、大学で国際関係を学んでいくうちに、中国脅威論の話を聞いて、僕が持っていた印象としての中国の大きさや強さが、今悪い方向に偏っていつてるんじゃないかなという印象に変わっていったんですね。そんな中、数年前に中国の大連と瀋陽に行ったんですよ。その時中国で普通に接する人には、脅威論的なものはまったく感じなかったんです。でも気になったことがあって、大きな広場で武装警察か人民解放軍の人が訓練していたんですが、その姿が物凄く真剣だったんですよ。自衛隊の訓練でもあんな真剣さ、真面目さはないなあって思ったんです。その時に、この人たちとも戦うことがあったら、厳しい戦いを強いられるんだろうなあと肌で感じたのは確かですね。

古田 中国の印象というと、第一に、歴史や漢文といった勉強としてのイメージがあります。特に中国史。近所の国でこんなにも政治や経済

や社会や学問が発展していたことに、純粹に畏敬の念を持っています。第二に、マスコミの中国報道を通しての印象があります。日本とは対照的に上り調子の国が隣にあることに不安や羨ましさを感じています。第三に、去年香港旅行を経験しての印象で、バイタリティがすごいなあと感じました。物凄い高層建築がどんどん建っていたり、港湾設備の大きさに物凄いインパクトがあつて、今まで中国の経済成長はいつか止まるんじゃないかって思っていたんですけど、このまましばらくは伸びそうだなあと、一ナシヨナリストとしては非常に恐怖感を覚えたというか、複雑な印象を持ちました。

司会 では、経済について、今年か来年には日中のGDPが逆転しそうだといわれていますが、このことについてどう思っていますか。また、豊かさの実感はありますか。

劉 このランキングは、実生活と差があると思います。北京や上海を中国の代表とすることはできないんじゃないですか。農村部はどのような都市部のように発展していません。だから、GDPよりは、生活の質が大切だと思います。

徐 中国のGDPを一三億の人で割ればすごく小さい数字になります。そして、中国の今の経済発展を支えているのは、すごくコストの低い

人件費、あるいは自然の資源です。中国の企業がなぜ強くなったかという点、市場規制によって、特定の国有企業に資源を独占させたり、独占的な地位を与えていたからです。それはあぶないかなあと思っているところです。

小林 徐君の中国の企業がなぜ強くなったかという話は、たぶん高度成長期の日本とほぼ同じだなと感じました。日本も霞が関の皆さんが強力に指導してGDPを伸ばしてきたというのがあるんです。それでいくと、今の日本のように、バブルがはじけちゃって何かつまずくと中国もあぶないですねって言いたいんですが、人民元のコントロールをみても結構中国はしたたかなんで、まだまだGDPの成長ついているのは続いていくのかなあと思います。

古田 GDPそれ自体で勝つということが恐らく不可能であろうというのは目に見えてますよね。やっぱり人口規模、市場規模が違うっていうこと。これはもう、めっちゃくちゃ大きいことです。ただ、不安を感じないでもないというところが一つあります。それは高齢化の進展や一人っ子政策によって人口構成がすごくいびつになつていくのではないかということです。やっぱり将来の成長を考えたときに人口構成がすごく重要だと思うんです。

司会 中国の軍事費増大についてどう考えますか。

徐 なぜ中国は軍事費を増やすのかというと、それは日米の軍事的な同盟にちゃんと対応しなければならぬからです。やはり中国政府にとっては、外部的な要因があれば毅然と対応しなければならぬから膨大な軍事費をつけているということがあります。

劉 日中関係について中国脅威論があるとおっしゃいますが、中国のリーダーたちは、戦争はしないという平和的な主張を訴えています。それでも脅威とされますか。

小林 国と国との関係では、信じる、信じないという話ではないのです。中国もアメリカを脅威と考えていますよね。日本は欧米と話をしやすいが、中国とは話がかみあわない世界がある。外交上の論理が欧米とは違っていて、そのために誤解を生みやすいんだと思います。隣にプロレスラーみたいな人がいれば怖いですよ。でも、同じ背景を持つていけば、意図がわかるので脅威にならない。それが我々にとって中国は、体が大きいうえに、思考プロセスが違つて意図がわからないので、何か言ったらいきなりぶんなぐられんじゃないかなって思うわけです。それはたぶんお互い様なんでしょう、これが現状ですよ。



司会 中国の政治家で好きな人は誰ですか。

劉 温家宝首相を尊敬します。彼は人々の生活に深い関心を持っています。地震や洪水のときも被害者に寄り添って励ましています。

楊 私も温首相が好きです。人間は感情的な動物です。中国南部での渇水の時、温首相が涙を流している映像を見て、私は感動しました。

徐 温首相の人気の原因はマスコミのマジック。国民党が内戦で負けたのも共産党のプロパガンダのためです。軍事力の差でなく、市民に考え

を広めるのがうまいから。アメリカと中国共産党が論争をすればおそらくアメリカが負けます。それくらい、プロパガンダがたくみなのです。

劉 マジックだろうと政治において一三億人を団結させるにはヒーローやカリスマが必要だと思います。

小林 なぜ胡錦濤主席は人気がないんですか。

劉 主席はマクロ的な仕事をしますが、首相は現場に足を運んで仕事をしているからです。

楊 国民と主席は距離が遠いですね。

司会 小泉純一郎元首相が靖国神社を参拝して日中関係が悪化したことがありましたが、それについてどう思いますか。

楊 その時ちょうど大学二年生でした。その時にできた日本人の友達に「小泉首相をどう思うか」と聞いたところ、好きだという返事でした。

ですが、その時は、中国のメディアから情報を得ていたので、私にとっては悪いイメージでした。でも、日本人の友達からは日本人のためになることもやったと聞きました。政治家は国民に対して何をしたかで判断されるべきで、私にとっては、自分の国の利益、「中国に対して何をしたのか」という点が一番重要でした。

徐 日本の首相である以上、日本人のために仕事をするのは当然ですが、外国人の目から見れば靖国神社に参拝することは止めてほしいと思

います。個人的に靖国神社に行ったことがありますが、あそこにいる街宣車で叫んでいた人は偏見を持った人たちだと思いました。ただ、彼らが日本の世論でなく、ごく一部の意見に過ぎないということもよくわかります。

古田 靖国神社は慰霊施設であり、戦没者を慰霊するのは普通のことだと思います。それはあくまで鎮魂であり、敬意を表して「二度とこのようなことをしないように」という考えで行くのはありかと。そこで戦犯が合祀されていることが問題となりますが、邪な意図は無いことと二度と戦争を起こさないという思いであることを近隣諸国に理解を得て、参拝できる環境を整えることが筋だと思います。日本は中国ともアメリカとも戦争をしていました。アメリカからの反発がないのに中国からの反発があることは、戦後の日中関係と日米関係の違いを反映していると思います。その「宿題」を解決していくて、戦没者の慰霊がスムーズにできるようにすることは、自分として必要だと思っています。

徐 中国での報道では、ほとんど日本とドイツを比べています。ドイツがあんなに真剣に謝罪したのに対して、なぜ日本は中国に対してちゃんと謝罪しないのが問題になっています。

小林 確かに、ドイツと比べたら、足りない部

分があるのかもしれない。一方、日本の保守主義の人は、「そもそも日本はドイツと違うんだ」と言います。一概に比べられては困るところはあります。

司会 中国の官僚制について話を聞きたいと思えます。中国の一般の人は官僚にどのような印象を持っていますか。

徐 凄く偉い人。

楊 金を持っている人。

徐 だから、温家宝という親切的な首相が現れたら、凄く人気が出た。

楊 そう、珍しいから(笑)。もともと首相だからそんなことなくてもいい。それでも、してくれたから感動したんです。

司会 共産党員だけが官僚になれるのですか。

徐 そうとも限らないです。日本のように、試験で選べれます。でも、合格したらしばらく共産党に入ります。

小林 共産党員っていうのは、お金を積み重ねるものなんですか。

徐 ちゃんと勉強しないといけないです。

小林 じゃあ、お金の問題ではなく能力の問題なんですね。

楊 普通だったら、もしクラスの中にめっちゃ良い成績の人がいれば、先生から言われますよ。

「入りましょう」って(笑)。

小林 凄いシステム。エリート集団なんだ。共産党員って。

楊 そうそう。そういうイメージ。優れた人だけが入れます。「私、入りたい」では駄目な時もありますし(笑)。

徐 でも、もし物凄くお金持ちだったら、「お前も入ろう」って言われる可能性もあります。お金の問題も多少ありますね。

司会 チベットやウイグルの暴動の問題についてどう考えますか。

徐 独立には賛成できませんね。もし、内モンゴルが独立したらアメリカの軍事力が入る可能性が全くないとはいえないから…。

楊 一つの国だから、独立は絶対駄目。今の中国の調子を見れば、もつと経済も強くなるので、中国にいる方がメリットがあると思いますよ。

小林 日本でも、沖縄が独立するっていったら、どうしようかな。独立したいっていう感情自体は凄く理解ができるけど、困るなっていうのが大きいですね。

古田 日本側からすると、中国が抱える問題の一つが民族問題で、もう一つが民主化の運動だと思うんですけど、そういった民主化っていうのはどういう風に捉えていますか。

楊 日本のような民主主義国になりたいというようなことは、普段はあんまり考えないですね。ただ、日本に来て、まちづくりとかそういうような時に、市民の意見が聞かれるというのを知って、ああ民主的な国だなあと実感します。

徐 中国は今、賢人政治をモデルにしています。中国の長い歴史を見れば、全部民主主義ではないですね。賢人政治ですよね。国民党政府は失敗しました。その前の昔の中国は、世界的な力を持っていました。昔は民主主義でなくても、結構発展していたんです。そこで、中国共産党の中では、なぜ民主主義にしないといけないんだ、っていう議論があるんです。

司会 最後に、今後の日中関係を良くするためはどうすればいいと思うか、一言お願いします。

楊 互いの立場に立ったら、どんな問題でも解決できると思います。

小林 やっぱり相互理解が大切だと思います。お互いこういう行動を取ったら相手がこう思うよっていうスタンダードが無いんですよ。日中のいろいろな場面で、スタンダードを作っていくのが大切だと思いますね。